

26年3月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 2月20日～ 26年3月10日

2. 調査実施方法

全国の製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
3月分の回答企業数は18社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/3月	4月	5月
入荷動向	スギ	40.9	20.0	20.0
	ヒノキ	50.0	18.8	△ 6.3
	カラマツ	△ 50.0	△ 100.0	△ 100.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 75.0	△ 75.0
消費動向	スギ	9.1	15.0	5.0
	ヒノキ	22.2	18.8	6.3
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	25.0	0.0	△ 25.0
在庫動向	スギ	36.4	10.0	20.0
	ヒノキ	33.3	31.3	31.3
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 100.0
	トドマツ	50.0	△ 50.0	△ 50.0

スギ原木入荷は増加傾向で推移、ヒノキは3、4月の増加が5月にはやや減少に、カラマツ及びトドマツは減少傾向で推移。
スギ及びヒノキ原木の消費は増加傾向で推移、カラマツは3月の横ばいが4、5月は減少に、トドマツは3月の増加が5月に向け減少に。
スギ及びヒノキ原木の在庫は増加傾向で推移、カラマツは3月の横ばいが4、5月は減少に、トドマツは3月の増加が4、5月は減少に。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	26/3月	4月	5月
スギ	△ 22.7	△ 20.0	△ 25.0
ヒノキ	△ 61.1	△ 37.5	△ 31.3
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

スギ及びヒノキ原木価格は弱含みないし弱保合で推移、特にヒノキは弱い。カラマツ及びトドマツは横ばいで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)
(原木価格)

26年3月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/3月	4月	5月
生産動向	スギ	10.0	11.1	5.6
	ヒノキ	12.5	21.4	14.3
	カラマツ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	25.0	25.0	0.0
出荷動向	スギ	△ 5.0	△ 11.1	△ 11.1
	ヒノキ	△ 18.8	△ 21.4	△ 14.3
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	25.0	25.0	0.0
在庫動向	スギ	5.0	22.2	22.2
	ヒノキ	12.5	50.0	42.9
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

スギ及びヒノキ製材品の生産は増加傾向で推移、カラマツは3月の横ばいが4,5月は減少に、トドマツは3,4月の増加が5月には横ばいに。

スギ及びヒノキ製材品の出荷は減少傾向で推移、カラマツは3,4月の横ばいが5月には減少に、トドマツは3,4月の増加が5月には横ばいに。

スギ及びヒノキ製材品の在庫は増加傾向で推移、カラマツ及びトドマツは減少傾向で推移。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		26/3月	4月	5月
スギ	柱角 KD10.5×3	△ 9.1	△ 15.0	△ 15.0
	柱角 KD12×3	△ 15.0	△ 22.2	△ 22.2
	通し柱 12×6	0.0	△ 11.1	△ 16.7
	桁角	△ 12.5	△ 18.8	△ 18.8
	母屋角	△ 22.2	△ 31.3	△ 25.0
	タルキ	△ 6.3	△ 25.0	△ 25.0
	間柱	△ 20.0	△ 27.8	△ 22.2
	ヌキ	△ 16.7	△ 25.0	△ 18.8
	平割	△ 14.3	△ 21.4	△ 21.4
	ラミナ	△ 16.7	△ 50.0	△ 50.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	△ 37.5	△ 35.7	△ 14.3
	柱角 KD12×3	△ 37.5	△ 42.9	△ 21.4
	土台角 10.5×4	△ 44.4	△ 31.3	△ 18.8
	土台角 12×4	△ 50.0	△ 37.5	△ 31.3
	通し柱 12×6	△ 20.0	△ 10.0	△ 10.0
	ラミナ	△ 12.5	△ 33.3	△ 33.3
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	100.0	100.0	0.0	
〃 ラミナ	100.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	50.0	0.0	0.0	

スギ柱、桁、母屋、タルキ、間柱、ヌキ、平割及びヒノキは弱保合ないし弱含みで推移、通し柱は、3月の保合が5月の向け弱保合に。

ヒノキ製材品は総じて弱保合ないし弱含みで推移。

カラマツ梱包材及びラミナは3月の強含みが5月に向け保合に。

トドマツサンギは3月の強保合が5月に向け保合に。

モニターからのコメント

(製材品荷動)

- ・スギ製材品は生産増、出材増で、売れ行きも良い。
- ・ヒノキ製材品の出荷は4月からの消費税引き上げ後の動向次第。
- ・スギ、ヒノキ共生産は変わらず、出荷はヒノキの引き合い弱く年末までのことが嘘の様、現在は調整局面と思われる。
- ・素材入荷に合わせて生産、出荷に目立った動き無し、梅雨時の素材減に備えて製品在庫を増やす。
- ・生産は4月、5月在庫を増やす。出荷は3月、4月が谷間？、
- ・スギ、生産は乾燥材の注文が引続き増、特に柱材の注文が増えている。消費は県内はそれほどでもないが、県外への出荷が増えている。先月よりは生産量も上がっているため、出荷も増えている。生産量も上がったため在庫も増、急な注文にも対応していくため在庫はもう少し増やす予定。
- ・ヒノキは販売減のため生産セーブする。全体的に販売減で出荷もセーブ。単価下落のため在庫積み増しする。
- ・需要の堅調なスギの生産に専念したいが、原木市場にはヒノキの出材が多く、やむを得ずヒノキを生産している状態。出荷はヒノキよりスギの引き合いが多い。ヒノキ在庫が増えてきた。
- ・乾燥機増設したので生産増をしたいが人手等の関係で思うように増産できない。出荷の勢い落ちてきた、構造材の荷動きは急ブレーキ（ヒノキは）、かわりに床材、壁材などが増えてきた。在庫は、ヒノキは荷動き落ち生産増で増加、スギは相変わらずその日暮らし、在庫が増えてない。
- ・ヒノキ製材品の出荷は4月からの消費増税でやや減少。在庫も販売減少のため、4、5月と少しずつ増加。
- ・スギ製材品は生産落とさず需要期に向け在庫の積み増し、出荷はプレカットが一服と共に在庫手当も済み、また、値下がり傾向のため様子見、当用買い程度。
- ・カラマツ及びトドマツ製材品は、現在フル生産体制で、3月一杯はこのまま推移、産業用は4月以降落ち着くかもしれないが、建築用はバックオーダーがあることから堅調に推移と予想。
- ・トドマツ引続きフル生産、生産、即出荷が続く、在庫ゼロの状態続く。

(製材品出荷価格動向)

- ・スギ柱角KDは、6万円割れるのではないかと。スギ製材品価格は全般に下落は避けられない。
- ・ヒノキ土台角は、動きやや悪く下落。
- ・スギ製材品価格は変わらず、ヒノキは下げ、特に12角が下げ、105角は少ない。
- ・ヒノキA品は大きな変動はしないと予想、B品は10,000～15,000円/m³は下がると予想。
- ・トドマツ、4月に値上げ。受注バランスから見て、天井感あり。
- ・スギは先月に価格改定のお願いを各取引先に話しており、今月分より3,000～4,000円/m³UPで納入している。
- ・スギ12cm角が特に不振となる見通し。スギ母屋角は4m材が不足のため単価横ばい、スギ間柱はやや弱い、ヒノキ材急落している。
- ・スギ製品は、先高感はないが、まだまだ本格的な値下げは先になると思われる。ヒノキ10.5cm角は大手住宅メーカー向けが堅調、4m、12cm角は供給過多で価格下落。
- ・スギ製品は順調、間柱、柱、桁角などは相変わらず不足。ヒノキは土台を中心に急ブレーキ、単価も下落。
- ・ヒノキ製材品価格は原木価格の下落と製品動向悪化のためやや下落。
- ・スギ製材品はKDは横ばいから弱含みだが、グリーンは完全に下落傾向。

26年3月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/3月	4月	5月
仕入動向	米マツ丸太	50.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	50.0	△ 50.0	0.0
	NZラジアータ	100.0	100.0	50.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ原木の仕入れは3月の増加が4月の減少を経て5月には横ばいに、NZラジアータ原木は横ばいで推移。

米マツ原木の消費は3月の増加が4月の減少を経て5月には横ばいに、NZラジアータ原木は増加傾向で推移。

米マツ丸太の在庫は横ばいで推移、NZラジアータ原木は減少傾向で推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/3月	4月	5月
米マツ丸太	0.0	△ 50.0	0.0
NZラジアータ丸太	100.0	100.0	100.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

米マツ原木価格は3月の横ばいが4月の下げを経て横ばいに、NZラジアータは上げ基調で推移。

モニターからのコメント

(原木荷動) ・NZラジアータ原木は、受注多いため増産中で、原木在庫は減少中。

(原木価格動向) ・NZラジアータは、1月着US\$ 3アップ、2月着US\$ 5アップ、3月着US\$ 5アップ、1～4月でUS\$ 13、約9%アップとなる。

26年3月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	26/3月	4月	5月
生産動向			
米マツ製材品	50.0	△ 50.0	0.0
NZラジアータ製材品	100.0	100.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	0.0	50.0	50.0
NZラジアータ製材品	100.0	100.0	50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	100.0	0.0	0.0
NZラジアータ製材品	△ 100.0	△ 100.0	△ 50.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

米マツ製材品の生産は3月の増加が4月の減少を経て5月には横ばいに、NZラジアータは増加傾向で推移。

米マツ製材品の出荷は3月の横ばいが4,5月は増加に、NZラジアータは増加傾向で推移。

米マツ製材品の在庫は3月の増加が4,5月には横ばいに、NZラジアータは減少傾向で推移。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	26/3月	4月	5月
米マツ平角	50.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	100.0	50.0	0.0
NZ梱包材(割角)	100.0	50.0	0.0
NZ土木用材	100.0	50.0	0.0
その他	—	—	—

米マツ平角の出荷価格は3月の値上げ後、4,5月は横ばいに、正角及び小割は横ばいで推移。

NZ製材品出荷価格は総じて3,4月の上昇が5月には横ばいに。

モニターからのコメント

(製材品荷動き) ・米マツ製材品の出荷は、大雪の影響あり(2月~3月)、上棟の遅れ散見される。

・NZラジアータ製材は、4月までは注文多い、5月以降は減少すると予想。

(製材品出荷価格動向)

・米マツ、現地挽き、決算前に処分すれば相場に影響。

・NZ製材品は、2~3月で6,000円/m³の(17%アップ)値上げ、4月には一部値上げあるが、5月以降は同値予定。

・